
あめの贈り物

玲風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あめの贈り物

【Nコード】

N9470A

【作者名】

玲風

【あらすじ】

雨の日に、立ち寄った公園で彼女に出会った。彼女は俺に笑顔をくれたんだ。

雨。

雨が降っている。俺はその雨の中に立っている。雨は俺の心を表すかのように、激しく、悲しく降っている。鞆が濡れて、制服が濡れて、全身が濡れる。今、俺がいるのは誰もいない、雨に支配された公園。俺と同じように濡れる遊具。灰色の世界。

俺はベンチに座った。どうせ濡れているのだ。関係ない。訳もなく涙が溢れた。涙は雨が流してくれる。誰にもわからない悲しみの涙。俺はうつ向いた。

「何故泣いているの？」

不意に頭上から女の声が出た。慌てて顔をあげる。何故俺が泣いているとわかったのだらう。いや、それよりもいつここに来たのだ？水音、ましてや足音なんて聞こえなかったはず。

「誰？」

かすれた声。女はニコツと笑っただけだった。

「…彼女にフラれたんだ。高校生にもなってそれくらいで泣くなんて笑われるかもしれないけど…本気で好きだったんだ。」

アイツは俺をフットとき、

「あなたよりカッコイくて、優しくて、あたしを思ってくれる人を好きになった。」

って言った。泣いて気が動転していたのか初対面の奴に泣いている理由を話した。彼女は黙って聞いていた。彼女はゆっくり俺に話した。

「それは、悲しいね。大切な人失って寂しいね。でも、また好きな人が、好きになってくれる人が現れるよ。今は、悲しくてもきつと大丈夫だよ。」

妙に大人びた言葉。俺の胸を熱くさせた。溢れた涙が雨と一緒に流れ落ちる。

「ありがとう。」

涙で途切れる言葉。彼女はニッコリ笑った。

「うん。君は生きてるから大丈夫だよ。」

『君は生きてる？』俺は生きてる。だけど、今の言葉は……？

嬉しそうな彼女の顔。俺も、つられて笑った。彼女が気になっただけで、声には出さなかった。傘も差さずに立つ彼女は一つも濡れていない。俺はそれに今気付いた。

「え…濡れてない？」

ボソツと呟いたつもりだったが、意外に大きな声になった。

「あ…ばれちゃった。あたしは雨が降っても濡れない。雷が落ちても、感電しない。」

幽霊なんだ。一ヶ月前、死んじゃったの。それでね、フワフワ浮いたら君に出会ったんだ。ずっと、この一ヶ月間君を見てたんだ。君が泣いてるからつい、声かけたんだよ？」

また笑う彼女。どうしてこんなに笑ってられるんだ？死んでるのに。「あたしもう、成仏できそう。君に会えて、君と話ができて嬉しかった。」

最後にあたしの名前聞いてくれる？」

「……ああ。」

「あたしの名前はね…愛芽、だよ。」

彼女はふわっと浮いて、はじけるように消えた。

愛芽は俺に笑顔をくれた。俺はこれから、きつと好きな人ができるだろう。愛の芽を育てたいんだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9470a/>

あめの贈り物

2011年1月15日23時14分発行